

平成29年度教育計画の基本

信濃町立信濃小中学校長 宮澤 好一

1 学校教育目標

基本理念「信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成」 自主 友愛 克己 躍進

2 目指す子どもの姿

- | | | |
|--------------------------|---|---------------------------------|
| (1) 自ら求めて学ぶ児童・生徒 … 「自主」 | ⇒ | 自分自身をみつめ、豊かに生きる
児童・生徒 … 「躍進」 |
| (2) 命と仲間を慈しむ児童・生徒 … 「友愛」 | | |
| (3) 最後までやり抜く児童・生徒 … 「克己」 | | |

3 重点目標

- (1) 学ぶ意欲が高まる学習環境づくりと学力の向上
- (2) 相手意識を大切にしながら温かな人間関係づくりと特別支援教育の充実
- (3) 地域と共に歩む学校（信州型コミュニティースクールの推進）

4 重点目標の具現化のために

小中一貫校として開校5年目の昨年度より義務教育学校に移行された。それまでの4年間の取組の良さを今後も継続しつつ、5年目を新たなスタートとして考え、様々な課題の改善を進めてきている。

*安全・安心な学校づくりを継続・・・大きな事故や問題がないのは何よりである。先生方には、安全の日や一斉下校の定着に大変ご苦労いただいている。また、地域の方・PTAの方にも登下校の際には見守っていただき感謝である。冬場の安全指導の徹底を一層図っていききたい。

*地域の方に支えられた教育活動・・・様々な教育活動の面で地域の皆様の力を借りている。「地域を学び」「地域に学び」「地域と共に学ぶ」という形が定着している。オール信濃町で児童生徒を育成していただける体制に感謝である。

*児童・生徒の健全な育ち・・・1年生から9年生までが同じ環境のもと生活を共にし、交流を通してお互いが学び合う雰囲気が定着している。

開校6年目の本年度は、さらに改善を進め、子どもに軸足をのいた教育を全職員で進めたい。

(1) 学力の向上

○授業改善

- ・各教師の授業力の向上と授業の三観点（ねらい・めりはり・みとどけ）の徹底。
- ・教師がしゃべらず子どもがしゃべる授業にする。そのためにも、全授業にペア・グループ学習を位置づけ、子どもが自分の考えを発信できるようにする。
- ・若い職員の指導力の向上のため、ベテランの先生の授業から学ぶ全校研究会を位置づける。（学習問題・学習課題、机間巡視、児童生徒の観察の仕方、教材研究、つける力と評価等。）月1回、必ず授業参観をし合い、授業を通しての子どもの学びについて検討し合う。この信濃小中学校で学んだことが今後、転任先でも力となり通用するようにしたい。

○補助教材の活用

- ・NRTや全国学力調査の結果を分析し、やりっ放しではなく、できない問題を繰り返し解き、定着をさせる指導を充実させる。新年度予算によって、各学年・教科において、ドリル帳や学習プリント等を用意し、授業前のドリルや家庭学習に活用する。

○自分の考えを発信する児童・生徒

- ・「7ミニッツ・シンキング」の実施。毎月、コラム等について自分の考えをまとめ、文章に表現をする（高等部）。各学年の記述文を紹介し、評価を加えた通信を生徒に配付する。
- ・音楽集会・全校集会の隊形を全校でコの字型にし、全校がお互いの顔を向かい合わせながら、全校で1つの活動を創りあげるようにする。特に音楽集会では、委員会が中心となり企画運営をし、発表を聴いての感想や考えを発信する場を設ける。今後は地域に公開していきたい。

○家庭学習の充実

- ・家庭学習スタートタイムを午後の学級活動に位置づけ、見通しをもって家庭学習に取り組めるようにする。評価については、家庭にも協力を仰ぎたい。

(2) 児童生徒が安心して日々を過ごせる学校・学級づくり

○職員間の連携

本校は、町から多くの加配を配置していただいている。多くの職員がいれば、教育効果が上がって然るべきだと考えられる。より多くの効果を上げるためには、職員間（担任と支援員、担任と副担任、担任と教科担任、担任と特別支援担任、担任とリソース担当職員、T T、担任と保健室、異学年間）の連携が大事である。連携の仕方について明確にしていきたいと考えている。新年度は、新年度職員会に時間を設けていきたい。節目には連携会議を位置づけたい。

また、義務教育学校として本校の強みは、1年から9年までの9年間を通して教育活動ができる点である。しかし、やや異学年間の連携やかかわりが希薄になってしまっている。そこで、教務主任が中心となり「職員間の虹を架けようプロジェクト」がスタートしている。（「朝の読み聞かせの担任交代制」「給食の担任交代制」「朝の学活の担任交代制（語る部分）」等。）今後も様々なプロジェクトを通して、1年から9年までの全児童・生徒を全職員で支援する態勢を構築していく。

○温かな人間関係づくり

児童生徒同士のかかわりを大事に考え、様々な場や機会を意図的に設定する。友達とかかわる中で、意見の違いなどを理解して折り合いをつける話し合い等の経験を積み重ねることができるようになる。教師は「褒めて、認めて、励ます」ことにより、児童生徒が自信をもつことができるよう支援する。

また、教師はゆったりと構え、子どもの姿を笑顔で見守る。しかし、わがままは許さない。いけないことはいけないという毅然とした態度を全職員が見せる。その指導のあり方は先生方の個性を大切にす。学級・学年づくりにおいては、「正直者が馬鹿を見ない」ようにする。子どもたちは「この先生は、正しい指導をきちんとしてくれる」と見抜き、信頼を寄せてくれる。

○人権教育の充実

人権教育旬間・月間やいのちの教育月間等により、人権感覚の高まりと命の重みや重要性の再確認を行う。また、いじめ・差別を起こさない学校・学級のため、様々な機会を通して、多様な価値観の受容や集団としての人権意識の高揚、いじめ・差別に気づき、なくそうとする態度の育成などに全校をあげて取り組んでいく。日頃から児童生徒の様子をとらえ、心配な時は声をかけるなどきめ細かな配慮を心がけていく。

○挨拶の響く学校

まずは教師から積極的な挨拶をする。教師は常に清明であることが子どもたちや保護者、地域の方たちに安心感を与える。児童生徒会や初等部による「あいさつ運動」も活発になってきているところ。全校児童生徒、職員で盛り上げていきたい。

(3) 地域と共に歩む学校

○カリキュラムマネジメントによる教科横断的な学習

開校時から積み上げてきた貴重な実践を整理し、教科・道徳・総合的な学習・特活との関連を考えたカリキュラム作りを進めていく。また、各学年の中核となる活動を決め出したり、学年相互の活動内容の検討（重複・発達段階への考慮等）をしたりして、9年間を見通したカリキュラムを作成していく。また、課題解決的な学習により、学習したことを校内・地域へ発信するなどの表現力や、ふるさと学習で学んだことを地域に生かすなどの思考力や判断力を育成していきたい。

○「しなの学校応援団」の積極的な活用と連携

地域の方たちには、様々な形で支援をいただいている。

- ・学習支援（習字・調理・裁縫・植物観察等）
- ・スキー支援
- ・クラブ活動支援
- ・ふるさと登山支援
- ・職場体験学習支援
- ・田んぼの活動支援
- ・川の学習
- ・町の歴史学習支援
- ・9年総合的な学習支援
- ほか

つける力に照らして地域の特性を生かした活動を取り入れ、様々な人との関わりを通して自らの生き方を見つめ、ふるさと信濃町に対する誇りを育んでいきたい。